大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2019年第16週(4月15日~4月21日)

今週のコメント

~インフルエンザ~咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 2週連続増加、注意」

第16週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は3,166例であり、前週比18.8%増であった。 定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、手 足口病、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ8.41、2.86、1.31、1.24、0.80であった。

感染性胃腸炎は前週比19%増の1,657例で、大阪市北部13.39、中河内11.80、大阪市南部9.72、北河内9.52、三島8.82である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比19%増の563例で、南河内6.44、大阪市南部3.61、泉州3.50であった。

RSウイルス感染症は前週比11%増の258例で、大阪市西部2.50、大阪市北部1.92、南河内1.88である。 手足口病は前週比52%増の245例で、北河内3.74、中河内2.70、大阪市東部1.33であった。 伝染性紅斑は前週比34%増の158例で、北河内1.74、大阪市北部1.54、中河内1.00である。

インフルエンザは96%増の644例で、定点あたり報告数は2.14であった。大阪市西部2.80、大阪市東部2.77、北河内2.62、南河内2.58である。

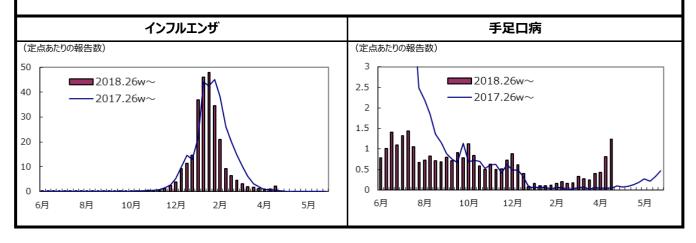


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2019年 第16週4月15日~4月21日)

第16週 の順位	第15週 の順位	感染症	2019年 第16週の 定点あたり 報告数	前週比增減	2018年 第16週の 定点あたり 報告数	2019年第16週の 年齢別 患者発生数 最大割合値			
1	1	感染性胃腸炎	8.41	19%増	7.85	1歳_18%			
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.86	19%増	2.17	4歳_14%			
3	3	RSウイルス感染症	1.31	11%増	0.47	1歳未満_41%			
4	4	手足口病	1.24	52%増	0.04	1歳_43%			
5	5	伝染性紅斑	0.80	34%増	0.06	5歳_23%			
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	2.14	96%増	0.66	10-14歳_20%			

第16週のコメント

〜アメーバ赤痢〜 発展途上国に渡航される方は、生水、氷に注意し、野菜、肉類を生で喫食しないようにしましょう

アメーバ赤痢は、原虫である赤痢アメーバ (Entamoeba histolytica)を病原体とする感染症である。世界で、約5億人が感染し、毎年約4-7万人が死亡している。発展途上国への渡航者によくみられる感染症だが、国内では男性同性愛者間での感染が多い。感染経路として、汚染された飲食物による経口感染や性的接触による感染がある。大腸粘膜面に潰瘍性病変を形成し、粘血便を主体とする赤痢アメーバ性大腸炎を発症させる。大腸炎症例のうち5%ほどが腸管外病変を形成し、大部分は肝膿瘍である。

<u>感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)</u> アメーバ赤痢とは(国立感染症研究所)

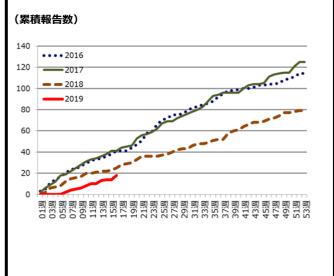


表 2. 大阪府全数報告数 (2019年 第16週4月15日~4月21日)

注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

	疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2		1					1		21
4類感染症	デング熱	2								2	11
4 规念朱征	レジオネラ症(肺炎型)	1			1						15
	アメーバ赤痢	4		1	1		1	1			18
	ウイルス性肝炎	1			1						6
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1						1			53
	後天性免疫不全症候群	1								1	42
广米百成为小宁	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1							24
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	7	1	1	1			1	2	1	95
	梅毒	12			2	1	1		1	7	330
	百日咳	4			1		1	1	1		289
	風しん	1			1						111
	麻しん	1								1	132
幺±太左	桂核 新登録串考数・141名 (内 肺, 液液涂抹陽性 62名)										